

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

全国平均との差を以下のように表記しています。

「上回っている」＝＋3. 1 p t（ポイント）以上

「ほぼ同程度であるが、やや上回る」＝＋3. 0 p t の範囲内で全国平均以上

「ほぼ同程度」＝全国平均と同じ

「ほぼ同程度であるが、やや下回る」＝－3. 0 p t の範囲内で全国平均以下

「下回っている」＝－3. 1 p t（ポイント）以下

【中学校国語】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中 学 校 国 語	【領域】 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 全国平均とほぼ同程度であるが、 やや上回っている。	●文脈に即して漢字を正しく使うことができること。	○必要に応じて辞書を活用し漢字や語句の持つ意味に留意しながら文章に即した漢字を正しく使える活動の充実。
	「話すこと・聞くこと」 全国平均と同程度であるがやや上回っている。	●自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことができること。	○文章に示された考えとそれを支える根拠との関係をあきらかにしながら話や文章を理解する活動の充実。
	「書くこと」 全国平均と同程度であるがやや下回っている。	●資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。	○文章の構成や展開に着目し根拠を明確にしながら理解する活動の充実。
	「読むこと」 全国平均を上回っている。	●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができること。	○語句の使い方に留意しながら、文章や話の構成や叙述の仕方を考える活動の充実。
		●読み手の立場に立って、語句の用法叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができること。	

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

「数と式」

全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

全国平均を下回っている。

「関数」

全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「データの活用」

全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「数と式」

- 数量について、文字を用いた式で表すこと。
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。

「図形」

- 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。

「関数」

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

「データの活用」

- 相対度数の意味を理解すること。

「数と式」

- 数についての基本を振り返り、式の変形や意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実。

「図形」

- 図形についての基本を振り返り、ある事柄が成り立つことを説明する活動の充実。

「関数」

- 様々な関数を、事象に関連づけ、数学的に説明する活動の充実。

「データの活用」

- 基本を振り返り、理解を深めた上で、問題演習する活動の充実。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校 理科	【領域】 「生命」 全国平均を上回っている。	「生命」 ●小腸、肺胞、根毛に関して、表面積を大きくすることの良さを理解すること。	「生命」 ○生命のからだの作りがなぜそのような仕組みになっているのかを考える活動の充実。
	「粒子」 全国平均を上回っている。	「粒子」 ●元素記号と化学式の違いを理解することや、密度が空気より小さいと気体が上昇する事象について理解すること。	「粒子」 ○化学式の成り立ちや、物質の構成とのつながりを意識しながら学習する活動の充実。
	「エネルギー」 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	「エネルギー」 ●直列と並列での電流の強さや消費電力・熱量の多さを理解すること。	「エネルギー」 ○直列回路と並列回路における電流・電圧の特徴を分けてまとめる活動の充実。
	「地球」 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。	「地球」 ●柱状図を見て、どの地層がどの地層とつながっているのかをしっかりと理解すること。	「地球」 ○地層の広がりを実感させる取組や、タブレット端末を活用した身近な地層について調べ学習をする活動の充実。

【質問紙調査】

今回の調査では、国語・数学・理科以外に、基本的な生活習慣から、学校生活、学習状況など、多岐にわたる内容の質問も実施されています。本校の結果に関する分析では、札幌市の実施報告書にあったものと共通の視点での分析、全国平均と比べて、本校生徒の特徴となる質問の分析について紹介します。

成果が見られる項目の数値を青字、課題である項目の数値を赤字で標記しています。

《人間尊重の教育に係る質問》

〈相互承認の感度〉の視点

- A 自分にはよいところがあると思うかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して-6.1ポイント、全国平均との比較でも-5.6ポイントと低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	86.7	83.3
R 7年度	80.6	86.2

- B 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して+1.3ポイント高くなっているが、全国平均と比較すると-4.3とポイント低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	86.6	90.4
R 7年度	87.9	92.2

〈「自分が大切にされている」と実感できる学校〉の視点

- C 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して+0.1ポイント、全国平均と比較すると-0.6ポイントとほぼ同程度である。

	本校	全国
R 6年度	72.5	67.5
R 7年度	72.6	73.2

- D 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあるかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して+0.3ポイント、全国平均と比較して+0.4ポイントとほぼ同程度である。

	本校	全国
R 6年度	91.7	89.8
R 7年度	92.0	91.6

〈キャリア教育〉の視点

- E 将来の夢や目標を持っていますかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は昨年度と比較して+1.1ポイント、全国平均と比較して+2.7ポイントと高くなっている。

	本校	全国
R 6年度	69.1	66.3
R 7年度	70.2	67.5

札幌市学校教育の重点の基盤である「人間尊重の教育」を本校でも推進してきた結果、どの項目についても概ね肯定的な回答の割合が高く、成果が表れてきていると考えられる。しかし、A、Bの項目については昨年度や全国平均との比較で低くなっている。生徒一人ひとりの良さを認め、褒める教師の関わりをこれまで以上に大切にし、生徒同士が互いに尊重する気持ちを育てる取組を継続していきたい。

《課題探究的な学習に係る質問》

〈主体性〉の視点

- F 授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して-5.9ポイント低く、全国平均と比較して-4.4ポイント低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	79.2	80.3
R 7年度	73.3	77.7

〈個別探究〉の視点

- G 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国平均と比較すると+1.5ポイントと高くなっている。

	本校	全国
R 6年度	79.2	78.6
R 7年度	79.0	77.5

〈協働探究〉の視点

- H 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国平均と比較して-4.8ポイントと低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	90.0	92.3
R 7年度	87.1	91.9

〈リフレクション（振り返り）〉の視点

- I 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して+1.7ポイント高く、全国平均と比較して+1.6ポイントと高くなっている。

	本校	全国
R 6年度	73.3	77.9
R 7年度	75.0	73.4

〈教師の関わり〉の視点

- J 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して-2.3ポイント、全国平均と比較して-7.2ポイントと低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	78.3	84.9
R 7年度	76.6	83.8

AARサイクル※の視点で授業改善を図り、子ども一人ひとりの主体性を大切にした多様な学びを推進してきた成果として、学び方の工夫を自分で行うことや学習したことを次の学習につなげていくことにおいて向上が見られる。しかし、全国平均よりも下回っている項目が多いことや、昨年度の数値を下回っている項目もあることから、校内研修会などの機会を活用しながら授業改善の取組を継続していく必要がある。特に主体的に課題を見出したり、仲間と協力しながら課題を追究したりする活動、また教師の関わりについては、数値の低下が大きい。生徒一人ひとりの学習状況を丁寧に捉え、個に応じて柔軟に学習指導していくことを、学校全体の課題として取り組んでいく必要がある。

※ Anticipation（見通し）、Action（行動）、Reflection（振り返り）からなる反復的な学習プロセス
(OECD ラーニングコンパス 2030 より)

《さっぽろっ子自治的な活動に係る質問》

〈自治的な活動〉の視点

K あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思うかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して+0.7ポイント高く、全国平均と比較して-2.0ポイントと低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	81.6	86.3
R 7年度	82.3	84.3

L 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して+0.8ポイント、全国平均と比較して-0.7とほぼ同程度である。

	本校	全国
R 6年度	75.8	80.6
R 7年度	76.6	77.3

M 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、昨年度と比較して-7.3ポイント、全国平均と比較して-3.5ポイントと低くなっている。

	本校	全国
R 6年度	79.1	76.1
R 7年度	71.8	75.3

本校では、どの学年においても学年集会を生徒主体となって企画・運営しており、その中で学校生活を振り返ったり、学年全体で楽しみながら相互理解を深めたりする活動を行っている。また、学校祭においても生徒が主体となってダンスや歌などのパフォーマンスを企画し、披露する活動を行っている。そういった自主的な活動が一定の成果として表れていると考えられる。今後は、地域や社会とのつながりを実感できるような活動により一層力を入れ、子どもたちが安心感をもって学校に通い、学びの場を地域に広げられるような環境を整えていきたい。

《ＩＣＴの活用に係る質問》

- 授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を週１回以上使用していると回答した生徒の割合は、昨年度と比較して+0.9ポイント、全国平均と比較して+6.5ポイントと高くなっている。

	本校	全国
R 6年度	98.3	89.0
R 7年度	99.2	92.7

- また、上記の質問に対して、ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業）と回答した生徒は、全国平均と比較して+27.1パーセントと高い割合を占めている。

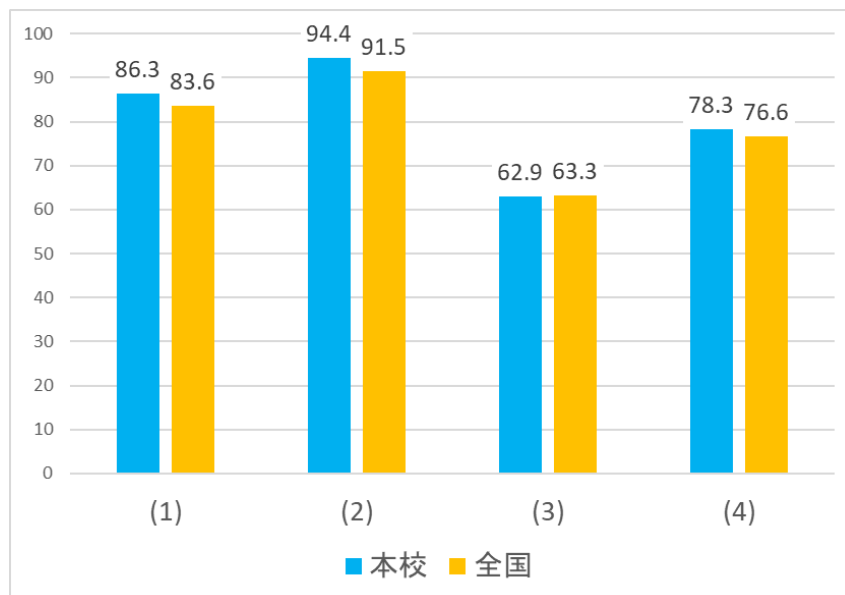
	ほぼ毎日 (複数教科)	ほぼ毎日 (単一教科)	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
本校	26.6	50.8	17.7	4.0	0.8	0
全国	29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0

〈情報処理能力〉の視点

１，２年生までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。

〈質問内容〉

- (１) ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ができると思いますか
- (２) インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ができると思いますか
- (３) ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか
- (４) ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか



全国平均とほぼ同ような傾向があり、ＩＣＴ機器を活用した学習による情報の収集や整理、プレゼンテーション資料の作成の能力が高まっていると実感できていることがわかる。また、全国平均と比べてほぼ毎日（１日に１回くらいの授業）使用していると回答した生徒が全国平均よりもかなり高い割合を占めていることから、本校のＩＣＴ活用の推進の水準が高いと言える。今後、さらにＩＣＴ活用の取組を進めていきたい。

《生活習慣に係る質問》

1 朝食を毎日食べているか

	本校	全国
R 6年度	95.0	91.2
R 7年度	89.5	91.2

2 毎日、同じくらいの時刻に寝ているか

	本校	全国
R 6年度	91.7	80.7
R 7年度	75.0	81.0

3 毎日、同じくらいの時刻に起きているか

	本校	全国
R 6年度	96.7	92.5
R 7年度	92.0	92.6

4 平日、塾などを含めて1時間以上勉強している割合
()の数値は、2時間以上勉強している割合

	本校	全国
R 6年度	60.8 (27.5)	64.3 (31.7)
R 7年度	60.6 (16.2)	61.6 (30.8)

5 平日、30分以上読書している割合

	本校	全国
R 6年度	質問項目なし	質問項目なし
R 7年度	28.2	21.4

6 新聞を週に1～3回以上読んでいる割合

	本校	全国
R 6年度	2.5	7.3
R 7年度	19.3	5.7

項目1～3は、すべての項目において全国平均を下回っており、やや規則正しい生活が送れていないことがわかる。特に就寝時間が定まっていないことから、夜遅くまで起きてしまっている生徒が一定数いると思われる。「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉にして生活すると、生活リズムが整い、集中力や学習の効果が高まるほか、体調がよくなり、心も安定する。毎日、規則正しい生活を心がけることが大切である。

勉強時間に関しては、1時間以上勉強している生徒の割合は全国平均と比較して同程度だが、2時間以上勉強している生徒の割合は低いことがわかる。一方で、読書や新聞に親しむ生徒が全国平均よりもかなり高い割合でいることがわかる。活字にふれることは、読解力の向上や、スマホデトックス（スマートフォンやパソコンなどのデジタル機器の使用を一時的に制限し、心身のリフレッシュを図る試み）につながるため、今後も継続していきけるとよい。